ソフトバレーボール

（はねうまカップ）

特別編

Myoko Soft Volleyball Federation

Ⅰ　施　設　と　用　具

1　競技場（第１図）

競技場には、コート及びフリーゾーンが含まれる。
競技場の表面から最低限7mの高さと、フリーゾーンの中にはネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。
また、競技場は、凹凸がなく水平であり、荒れていたり滑りやすい表面あってはならない。

（1）　コート

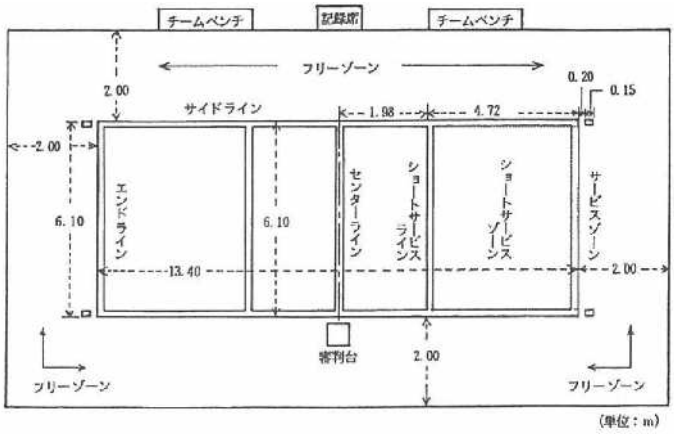
1）　コートは、13.40m×6.10mの広さを持つ長方形であって、最低限 2mの幅の長方形のフリーゾーンによって囲まれている。

2）　コートは2本のサイドラインと2本のエンドラインによって区画される。また、ネットの真下に、両サイドラインを結ぶセンター・ラインを引き、コートを2等分する。

3）　コートは第 1 図のような大きさと名称を持つ各ゾーンに区画される。

4）　サービスゾーンは、エンドラインの20cm後方の、両サイドラインの延長線上に引かれた長さ15cmの2本のラインによって区画される。
ショートサービスゾーンはセンターランの 1.98m後方に引かれたシュートサービスラインと、2本のラインによって区画される。

5）　すべてのラインの幅は4cmで、サービスゾーンを区画するライン以外はコート内に含まれるそれらのラインは明るい色で、床や他のラインとも異なる色でなければならない。



（2）　ネットおよび支柱

1）　ネットの高さは2mとし、幅60cmのソフトバレーボール用ネットを用いる。（注解③）

2）　支柱は、ソフトバレーボール用支柱を用い、両サイドライン上に、その長さを2等分する位置に立てる。

3） アンテナは、ネット上端から1m上方に出るように、1本ずつ両支柱の外側の縁に接するように取り付ける。

注　解③

① コートは、バトミントンのダブルス用コートの外側ラインを利用してもよい。
② 支柱やネットは、バトミントン用のものを利用してもよいが、支柱には補助器具を継ぎ足して規程の高さにする必要がある。
③ ネットの高さは、児童の体力や運動技能等に応じ、規程の高さにこだわることなく設定してもよい。（2mとする。）
④ 審判台は、50cm～80cmの高さのもにが適当で、一方に支柱から 50cm程度離しておく方が判定しやすい。
⑤ ベンチは、審判台と反対側のフリーゾーン外側に、両コートそれぞれ5人が座れるように設置する。（今大会は設置しない。）
⑥ 記録席は、公式記録ができる広さの机を、フリーゾーン外側で両コートのベンチの間に設置する。（公式記録は、サービスオーダー確認・得点記録のみ対応とする。）

2　ボ　ー　ル

ボールは、ゴム製で、重さ210±10g、円周78±1cmの公益財団法人日本バレーボール協会検定のソフトバレーボールを使用する。なお、色・メーカーについては規定しない。

Ⅱ　チ　ー　ム

1　チームの編成

チームは、監督 1 人、キャプテンを含む競技者 4 人と、4 人以内の交代競技者で構成される。

（1）ファミリーの部

一家族の老夫婦・夫婦・小学生、または複数家族の夫婦・小学生でコート内の競技者は大人2人（男女）、小学生2人とする。**大人の代わりに中学生（男女問わない）以上を含めてもよい。**

注　解

ファミリーの部

① 競技中、コートでは常に**小学生 2 人と大人（中学生以上）**の男女各 1 人でプレーしなければならないが、小学生の性別は問わない。
ここで、特別ルールを使用する。大人も男女の性別にこだわらない。

2　競技参加者の権利と義務

（1）基本的な権利と義務

1） 競技参加者は、競技規則を理解、遵守し、試合中、常にフェアプレーの原則とその精神に基づいた行動をとらなければならない。

2） 監督及びチームキャプテンは、チームの規律について責任を負わなければならない。なお、コート内の競技者の一人は、ゲームキャプテンでなければならない。

3） 試合中、監督、交代競技者は、フリーゾーン外の定められたベンチにいなければならない。

4） 競技参加者は、試合中、ベンチにいる限り、コート内の見方競技者に対して声援や、話しかけることができる。

（2）監督の権利と義務

1） 監督は、試合中、ベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならない。

2） 監督は、競技交代者およびタイムアウトを要求することができる。しかし、競技者としてコートの中にいるときは、その権利を失う。

3） 監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異議を申し出ることは許されない。

（3）キャプテンの権利と義務

1） チームキャプテンは、試合前、チームの代表としてトスおよびサインを行う。

2） チームキャプテンは、試合中、コート内にいる間は、ゲームキャプテンとして競技の中断中に主審・副審に対して

①競技者交代およびタイムアウトの要求をすることができる。

②競技規則適用の解釈について質問をすることができる。

3） チームキャプテンは、試合中、競技者交代をして、コートを離れるときは、コート内の競技者から代理のゲームキャプテンを指名しなければならない。

（4）競技者の服装

1） 競技者のユニフォーム（上下）は、清潔で、チームにより統一された色と同じ形のものを用いなければならない。

2） 競技者のユニフォームには、胸部と背部の中央に、1から8までの番号を付けなければならない。ただし、やむを得ない場合は、1から99の番号を用いてもよい。
番号はユニフォームと異なった色で、胸部には最小限5cm、背部には最小限10cmの高さのものを用いる。字幅は2cm以上とする。

3） チームキャプテンは、ユニフォームと異なった色で胸部の番号に下に、長さ8cm、幅2cmのマークを付ける。キャプテンマークがついていないときは、腕章（アームバンド）に代えることができる。

Ⅲ　試　合　の　準　備　と　進　行

1　キャプテンのトス

公式のウォームアップに先立ち、主審は、両チームのキャプテン立会のもとトスを行う。トスに勝ったチームキャプテンは、サービス権またはコートのいずれか一つを選ぶ。
最終（第3）セットが行われる場合、主審はもう一度トスを行う。

2　チームの公式ウォームアップ

試合開始前に、試合が行われるコートでネットを使って、それぞれ3分間の公式ウォームアップをすることに同意した場合は、両チーム合同で6分間とする。

3　チームのラインナップシート

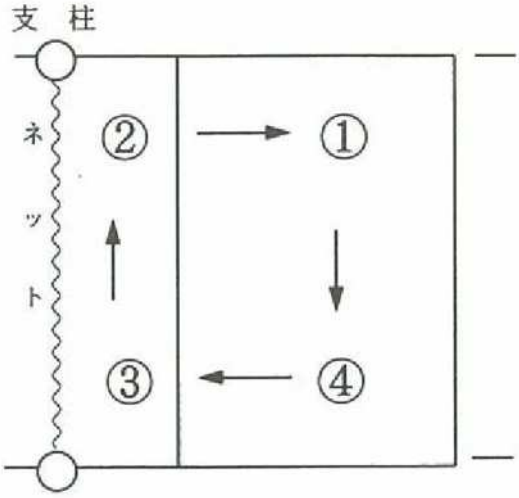
（1）　各セットの開始前に、監督またはチームキャプテンは、ラインアップシートにチームのスターティングラインアップを記入して、副審もしくは記録員に提出しなければならない。

4　競技者の位置とローテーション

（1）　位　　置

1）　ネットに沿って位置する2人はフロント競技者で、ポジション③（レフト）と②（ライト）の位置を占める。他の2人はバック競技者で、ポジション④（レフト）と①（ライト）の位置を占める。

2）　サーバーがボールを打った瞬間に両チームは、サーバーを除いてバックの競技者は対応するフロント競技者より後方に位置するとともに、バックの競技者同士やフロント競技者同士は、それぞれ自分のポジションのサイドライン近くに位置しなければならない。ただし、バックの競技者が対角となるフロントの競技者より前方に位置しても反則とならない。（第3図、第4図）



〈第2図〉

3）　サーバーを除く両チームの競技者は、サーブが打たれる瞬間にはコート内に位置していなければならない。サービスが打たれた後は、どのように移動してもよく、プレー上の制限はない。

（2）　ローテーション

1）　サービスをレシーブするチームがサービス権を得たとき、そのチームの競技者は、時計回りに一つずつ位置を移動する。

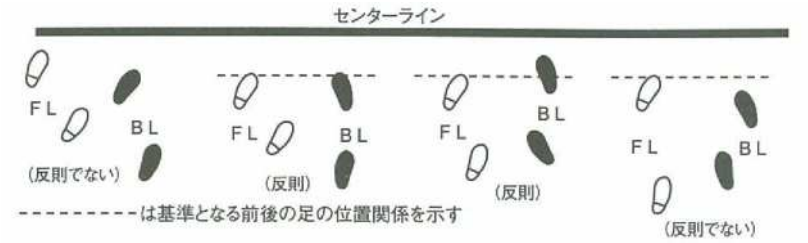
2）　ローテーション順は、スターティングラインアップにより決定され、そのセットを通じて変更することはできない。

注 解

競技者の位置とローテーションについて

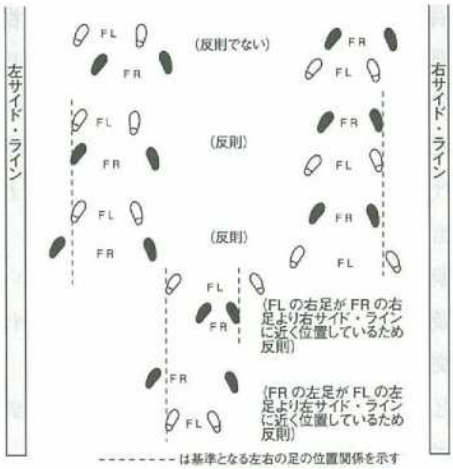
① 競技者の位置は、床面に接している両足の位置によって決定される。即ち

● 各フロント競技者の片足の少なくとも一部は、それぞれに対応するバックの競技者の両足よりも、センターライン近くに位置していること。



〈第3図 バック競技者とフロント競技者の位置関係〉

● ライト(レフト)に位置する各競技者の片足の少なくとも一部は、同じレフト(ライト)の競技者の両足よりも、ライト(レフト)のサイドラインの近くに位置していること。



〈第4図 レフト競技者とライト競技者の位置関係〉

● 第2図で○の中の数字はサービス順を示しているが、各セット開始時のレシービングチームは、サービス権を得たときローテーションするので、2番から打つことになる。

5 競技中断の要求

(1) タイムアウト

1) 各チームは、1セットにつき最大2回タイムアウトが認められる。このタイムアウトは1回につき30秒間とする。

2) タイムアウトは連続して要求することができる。この場合、競技は再開する必要はない。

3) タイムアウトの間は、コート内の競技者は、ベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

(2) 競技者の交代

1) 各セットの競技者交代は、4回(4人)以内とする。

2） 交代競技者は、1セットに一度だけスターティングメンバーと交代して競技に参加できるが競技から退く場合は同じ競技者としか交代できない。

3） 競技者交代は、2人から4人の競技者を同時に交代させることもできる。

4） 競技者交代は、サービス中の競技者に対しても許される。

5） 負傷の場合

1 正規の競技交替をする。

2 正規の交代ができない時は例外的な交代をする。

6） 例外的な交代とは

① 低年齢区分の競技者が負傷した場合は、高年齢区分の交代競技者の同性の者と交替する。

② 同じ条件で競技者の交替が終了し、低年齢区分の競技者が負傷の場合は同じ同年齢区分の交代競技者がいても高年齢区分の同性の者と交替する。

③ 4回（4人）の競技者交代がすでに終了し、低年齢区分のの競技者が負傷の場合は、同年齢区分の交代競技者がいても高年齢区分の交代競技者の同性の者と交代する。ただし、高年齢区分の同性の者が不在時は、再度同じ条件の競技者と交代する。

④ 高年齢区分の競技者が負傷した場合で、同年齢区分の同性の者が不在の場合は、例外的な交代は認めない。

7） 例外的な交代を場合、負傷した競技者は、その試合が終了するまで再度コートには戻れない。また、例外的な交代は競技者交代の回数には含めない。

注 解

全国ファミリーフェスティバル、全国シルバーフェスティバル等の大会においても例外的な交代は適用される。なお、ファミリーの部で、小学生が負傷した場合は、小学生の交代競技者と交代し性別の制限はない。

（3） 要求の方法

1） タイムアウトおよび競技者交代は、ボールがデットのとき、サービス許可の吸笛前に公式ハンドシグナルを示して要求しなければならない。
それが競技者交代であれば、交代者と被交代者の各番号を告げて要求する。

2） 2人以上の競技者交代をする場合は、要求の際その数を示さなければならない。

3） 競技者交代を要求したチームは、競技が再開されないうちに連続して競技者交代を要求することはできない。

（4） 不当な要求

次のようなタイムアウトや競技者交代の要求は不当であり、同一チームが同一試合で繰り返した場合、その都度反則となる。（一度目は口頭注意）

① ラリー中、またはサービス許可の吸笛と同時か吸笛後に、要求したとき。

② 要求する権利のない者が要求したとき。

③ 競技者交代を、競技の再開を待たずに連続して要求したとき。

④ 規程回数を超えて要求したとき。

注 解

不当な要求であっても、競技に影響を及ぼさず、また、試合の遅延とならないならば拒否される。

6 コートの交替

（1） 第1セットの終了後、チームはコートを交替する。

（2） 最終（第3）セット、一方のチームが8点に達したときは、直ちにコートを交替する。
なお、交代が正しい時点で行われなかった場合、誤りに気付き次第交替する。交替が行われた時点でのスコアは、そのまま引き継がれる。

（3） コートの交替時には、他のチームメンバーもベンチを交替する。

注 解

最終セット（1対1の後の第3セット）のキャプテントスは、第2セットが終了したらコート上の選手をベンチに戻させ、改めて両チームのキャプテンを記録席前に呼び、試合の始めと同じ要領でトスをさせる。したがってトスに勝ったチームは、サービス権をとるか、コートを選択することができる。そのため第3セットでは、コートが入れ替わる場合もあるので、第2セットが終わった時点ではコートの交替はしない。

Ⅳ 得点、セットおよび試合の勝者

1 試合の勝者

試合は3セットマッチとし、2セット先取したチームがその試合の勝者となる。

2 セットの勝者

一つのセットは最小限2点差をつけて、先に15点取ったチームがそのセットの勝者となる。
14対14の同点になった場合は、2点リードに達するまで試合は続行される。ただし、17点で試合は打ち切られ、17点を先取したチームが1点差でもそのセットの勝者となる。

3 得点の方法

相手チームがサービスや返球に失敗したり、または他の反則を犯したときは、ラリーに勝って1点を得る。また、もし相手がサービスチームであれば、サービス権も得る。

4 セット（試合）の没収

負傷などで競技者交代が正規にも、例外的にも出来ない場合には、その競技者に3分間の回復のためのタイムアウトが与えられる。回復しない場合にはそのチームは失格となり、次のセットの開始時に回復していない場合には、その試合は没収される。
相手チームに対しては、そのセットまたはその試合の勝者になるために必要な点数が与えられ

失格になったチームのそれまでに得た得点は生かされる。

注　解

ソフトバレーボールは、年齢区分別や性別によってチームを構成しているので、病気や負傷などの理由でやむを得ない場合、高年齢区分の競技者が低年齢区分の同性の者との交代を認め、なるべく「没収の処置」を避けるように配慮している。

Ⅴ　プレー上の動作と反則

1　サービス

サービスとは、サービスゾーン（あるいはショートサービスゾーン）内からバックライトの競技者がが、片手の手または腕でボールを打ち、インプレーの状態にする行為である。

（1）　セットの最初のサービス

1）　第1セットおよび第3セットの最初のサービスは、トスの結果サービス権を得たチームが行う

2）　第2セットの最初のサービスは、第1セットで最初にサービスが行わなかったチームによって行われる。

（2）　サービス順

サービスは、ラインナップシートに記入された順に従って行われる。

もし、サービス順通りに行われなかった時には、相手チームにサービス権と1点を与えた後正しいサービス順に戻す。

各セットの最初のサービスの後

1）　ラリーに勝ったチームがサービスチームであれば、前にサービスした同じ競技者がサービスを行う。

2）　サービスをレシーブしたチームがラリーに勝った場合は、サービス権を得てローテートし、バックライトに位置した競技者がサービスを行う。

（3）　サービスの実行

1）　サービスは1回とする。

2）　サーバーは、主審のサービス許可の吸笛後速やかにボールを打たなければならない。

主審の吸笛以前に行われたサービスは、無効となり打ち直される。

3）　サーバーは、ボールを打った瞬間、あるいはジャンプサービスをするために踏み切ったときコート（エンドラインを含む）やサービスゾーン外のフリーゾーンに触れてはならない。

（フットフォールトの反則）

（4）　小学校4年生以下の競技者は、ショートサービスゾーンからサービスをすることができるが、ボールを打った瞬間、あるいはジャンプサービスをするために踏み切ったとき、そのゾーンを区画している各ライン（エンドラインを除く。）を踏んだり、踏み越してはいけない

（5）　サーバーのフットフォールトやサービス側のアウトオブポジションとレシーブ側のアウトオブポジションが同時に起こったときは、サービス側の反則とする。（アウトオブポジションの反則が成立するのはサービスが打たれた瞬間に競技者がコート内に位置していないときである。）

注　解

サービスの際ボールを手の中で動かしたり、タイミングをとるために床にドリブルすることは許される。また、ボールをトスせず、片方の手の平にボールを乗せたまま、ヒットしてもよい。

小学生についてもサービスのトスは、1回とするが、サービストスしたボールがサーバーの身体に触れないで、床に落ちた場合は、1回だけサービスをやり直すことができる。

2　ボールへの接触

（1）　チームは、ネットを越えてボールを返すために、ブロックへの接触を除いて最大限3回プレーすることができる。

（2）　競技者は、連続して2回ボールに触れることはできない（ブロックを除く。）

（3）　同一チームの2人以上の競技者が同時にボールに触れたときは、1回触れたものとし、その後、いずれの競技者も引き続いてボールに触れることができる。

（4）　ボールは身体のどの部分に当たってもよい。

（5）　ボールは打たなければならない。つかんだり、投げてはならない。

（6）　両チームの競技者が同時にボールに接触した後、そのボールがアンテナに触れたときやアンテナの上方を通過したときは、ダブルファウルである。また、そのボールがコート外に落下した場合は、落ちた側の勝ちである。

注　解

①　チームの第1回目の打球のとき、ボールが身体の2箇所以上連続して当たってもよい。ただし、その接触は、一つの動作中のものに限る。

②　ホールディングやドリブルなどのボールハンドリングの基準は、試合のレベルに応じて緩和されることが望ましい。（今大会については適用しない）

3　アタックヒット

サービスとブロックを除き、ボールを相手方に向かって送ろうとするすべての動作は、アタックヒットとみなされる。

アタックヒットは、ボールがネット上方の垂直面を完全に通過した瞬間、あるいは相手競技者に触れたとき、完了する。

4人の競技者は、どの位置にいるときでも、味方のプレー空間内であればどんな高さからでもアタックヒットを行うことができる。

（1）　相手方がサービスしたボールを、ネット上端より完全に高い位置からアタックヒットを完了したときは反則となる。

（2）「ファミリーの部」では、大人の競技者がショートサービスゾーンよりセンターライン側エリアにてネット上端より完全に高い位置からアタックヒットを完了したときは反則となる。

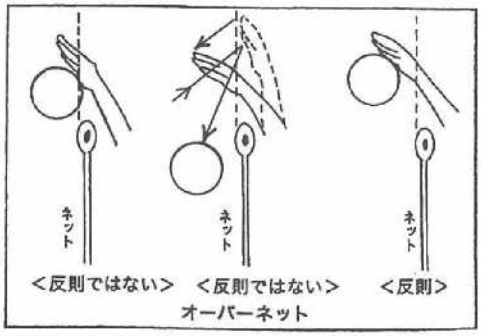
（3）　大人の競技者はショートサービスラインより前でのアタックヒットを禁止する。ただし最終 3 回目の大人の接触についてはショートサービスラインより前でアタックヒットする場合は、ネット上端より低い位置での返球のみ認める。

4　ブロック

ブロックとは、競技者がネットに接近して相手方から送られてくるボールをネットの上端より上方で阻止する行為をいう。

ブロックは、ボールがブロッカーに触れたときに完了する。

（1）　4人の競技者は、どの位置にいるときでも、相手のプレー後、ブロックすることができる。ただし、オーバーネットは許されない。その基準はボールと手（身体）の接触点で判定される。（第5図）



なお、「ファミリーの部」では、大人の競技者のブロックは反則となる。

（2）　相手方のサービスしたボールを、ブロックすることは許されない。

（3）　ブロック後の第1回目の接触は、ブロックのときボールに触れた競技者を含めてだれにでも許可される。

注　解

ブロックの形をしていても、接触したときのボールの高さにかかわらず、身体の一部がネット上端より高い位置にないときは、ブロックとみなさない。

5　ボールインとボールアウト

（1）　ボールイン

ボールが、コート区画線を含むコート内に接触したとき、そのボールはインとなる。（第7図）

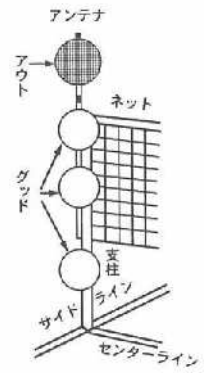
（2）　ボールアウト（第6図・第7図）

①ボールが、コート区画線の完全な外側の床に落下するか、コート外の物体に触れたとき。

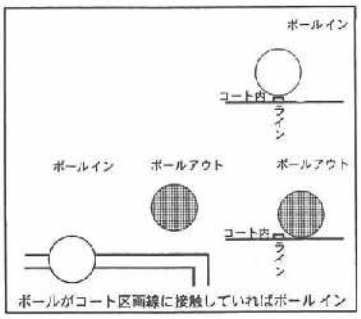
②ボールが、ネット上方のアンテナのみに触れたとき。

③ボールが、2 本のアンテナ、またはその想像延長線の間を通過しなかったとき。

④ボールが、ネット下を完全に通過して、相手コートに入ったとき。



〈第6図〉



〈第7図〉

注 解

次のような、ボールの支柱、ネット、アンテナなどへの接触は、サービスされたボールを除きその後プレーを続けることができる。

① ネット上端の水平帯以下の支柱に触れたとき。

② ネットとアンテナに同時に触れたとき。

6 プレー上の反則

次に挙げるプレーは、反則となる。

（1） チームが、サービス順を誤ってサービスを行ったとき。 **（サービス順の誤り）**

（2） サービスボールを打った瞬間、あるいはジャンプ・サービスをするため踏み切ったときに、コート（エンドラインを含む。）や、サービスゾーン（あるいはショートサービスゾーン）外側のフリーゾーンに触れていたとき。 **（フットフォールト）**

（3） サービスがうたれた瞬間に、サーバーをのぞき両チームの各競技者が、コート外に出ていたり、コート内で正しいポジションに位置していなかったとき。 **（アウトオブポジション）**

（4） サービスされたボールが、ネットやアンテナに触れるか、相手方競技者に触れずにボール・アウトになったとき。 **（サービスフォールト）**

（5） 相手方のサービスしたボールを、ネット上端より完全に高い位置から、アタック・ヒットしてそれが完了したとき。

また、「ファミリーの部」でバックに位置した大人の競技者が、ネット上端より完全に高い位置からアタックヒットして、それが完了したとき。 **（アタックヒットの反則）**

（6） 相手方のサービスしたボールを、ブロックしたとき。

また、「ファミリーの部」でバックに位置した大人の競技者がブロックしたとき。

（ブロックの反則）

（7） ネットを越えて相手方コートに打ち返すために、ボールへの接触が、ブロックへの接触を触を除いて最大限3回を超えたとき。 **（オーバータイムス）**

（8） ボール接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき。 **（ホールディング）**

（9） ブロックの場合を除き、同一競技者が、明らかに2度続けてボールに触れたとき。

（ドリブル）

（10） インプレー中に、ネットやアンテナに触れたとき。 **（タッチネット）**

（11） ネットを越えて相手コート内にあるボールに触れたとき。 **（オーバーネット）**

（12） センターラインを完全に越えて、相手コートに触れたとき。**（パッシングザセンターライン）**

（13） ① ボールがコート外の物体やネット上方のアンテナのみ触れたとき。

② ボールの全体またはその一部でもネット上部の許容空間外を通過したとき。

③ ボールが床に接触し、その部分が完全に区画線の外側であるとき。

④ ボールがネット下方の空間を完全に通過したとき。 **（ボールアウト）**

（14） ① 両チームの競技者が同時に反則を犯したとき。

② ネット上で、両チームの競技者が同時に接触し、そのボールがアンテナに触れたときやアンテナ上方を通過したとき。 **（ダブルファウル）**

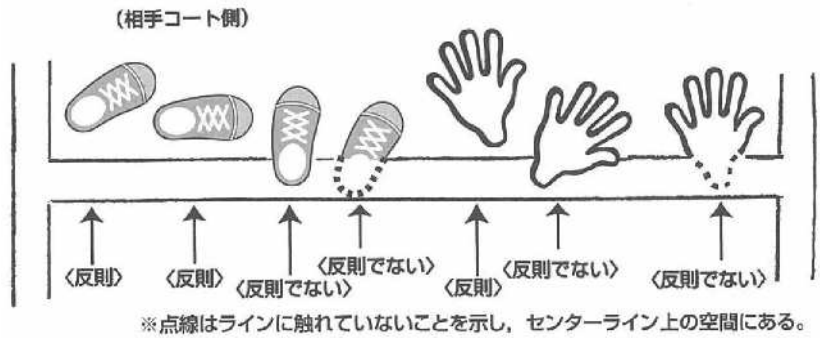
（15） 相手チームのプレーを妨害する行為があったとき。 **（インターフェア）**

注 解

①競技者がインプレー中に支柱に触れてもタッチネットの反則にならない。

②パッシングザセンターラインの反則で、片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。（図6）

③インターフェアの反則があったとき、主審はその競技者を指す。



Ⅳ 不当な行為とその罰則

1 罰則につながる不法な行為

役員、相手チーム、チームメイト、または観衆に対するチームメンバーの不法な行為は、その程度により3種類に分けられる。

（1） 無作法な行為 ： 良いマナーやフェアプレーの精神に反した行為。

（2） 侮辱的な行為 ： 中傷的、または相手チームを侮辱するような言葉やジェスチャー、あるいは軽蔑を表す行為。

（3） 暴力的な行為 ： 実際の身体的攻撃、また攻撃的、威嚇的な行為。

2　罰則の段階と罰則カード

警告　：　罰則ではない　－　イエローカードと口頭での注意
反則　：　罰則　－　レッドカード
退場　：　罰則　－　イエローカードとレットカードを一緒に示す
失格　：　罰則　－　イエローカードとレッドカードを別々に示す

注　解

①不法な行為に対する罰則を示すために、イエローとレッドカードを用意する。カードの代わりに口頭で警告または適用した罰則を通告する。

②罰則の適用については、過敏にならないことが望ましい。

（第１表）　不法な行為に対する罰則段階表

行為の区　分	回　数	行為者	罰則内容	掲示すべきカード	処置の仕方
軽度の不法な行為	1回目	いずれの競技参加者でも	警告	イエロー	再発を予防するため、ゲームキャプテンを通じてチームに口頭で指導する。
	2回目	いずれの競技参加者でも	反則	レッド	相手チームに1点とサービス権を与える。（無作法な行為に該当するものとして処置）
無作法な行為	1回目	いずれの競技参加者でも	反則	レッド	相手チームに1点とサービス権を与える。
	2回目	同一競技参加者	退場	イエローとレッドを一緒に	そのセットの残りの間ベンチ等から退去させる。
	3回目	同一競技参加者	失格	イエローとレッド別々に	その試合の残りの間ベンチから退去させる。
屈辱的な行為	1回目	いずれの競技参加者でも	退場	イエローとレッドを一緒に	そのセットの残りの間ベンチ等から退去させる。
	2回目	同一競技参加者	失格	イエローとレッド別々に	その試合の残りの間ベンチから退去させる。
暴力的な行為	1回目	いずれの競技参加者でも	失格	イエローとレッド別々に	その試合の残りの間ベンチから退去させる。

審判員とその責務
および公式ハンドシグナル

Ⅰ　審判員とその主な責務

競技は、主審1人、副審1人、記録員1人、線審2人、点示員2人の計7人で運営する。（第1図にその配置を示す。）

注　解

① ソフトバレーボール競技では、競技参加者による相互審判を理想としている。
今大会は、連盟役員および連盟より必要な場合のみ役員を配置する。

② ファミリーフェスティバル、シルバーフェスティバルなどの全国大会では、線審、点示員を競技参加者が分担する。

1　主　　審

（1） 権限

1） 主審は、ネットの一端に置かれた審判台の上に立ち、両方のコートがはっきり見えるような高さに位置して、その任務を遂行する。

2） 主審は、開始から終了まで試合を主宰し、すべての役員と両チームのメンバーに対して最高の権限を持つ。試合中、主審の決定は最終である。

3） 主審は、競技規則に明示されていないすべての問題を決定する権限を持ち、自分が下した判定に関しいかなる論争も許してはならない。

4） 主審は、試合開始前あるいは試合中に、競技場やその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任を持つ。

（2） 責務

1） 主審は試合開始前

① 競技場、ボールや他の用具の状態を点検する。

② 両チームのキャプテンを立ち会わせてトスを行う。

③ チームの公式ウォームアップを統御する。

2） 主審は、試合中、次の権限をもつ。

① 不法な行為（非スポーツマン的行為）に対して注意を与える。注意されても繰り返して行う場合は反則となることもある。

② 次のことを判定する。

（A） サーバーおよびサービングチームのポジションに関する反則。

（B） ボールをプレーするときの反則

（C） ネット上方、およびその上部に関する反則

（D） ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。

2 副　審

（1） 権限

1） 副審は、主審の反対側で、コート外側の支柱付近に立って任務を遂行する。

2） 副審は、ベンチのチームメンバーを監視し、その不法行為を主審に通告する。

3） タイムアウトや競技者交替の要求を許可し、その時間や回数を統御する。

（2） 責務

1） 各セットの開始時に、コート内の競技者がラインナップシートどおりか、チェックする。

注　解

もし、ラインナップシートの記載と異なる競技者が入っていた場合、シート通りの競技者に交代させる。なお、チームがコート内の競技者を残したい場合は、ラインナップシートと記録用紙を訂正し、これを認める。

なお、「小学生規則」では位置（サービス順）の確認の必要はない。

2） 試合中、副審は、次の点に関して判定し、吸笛をして合図する。

① サービス時のレシービングチームのポジションに関する反則。

② 競技者が、ネットあるいは副審側のアンテナに触れた場合の反則。

③ 相手方コートへ侵入したり、ネット下方の空間で相手方プレーを妨害したとき。

④ ボールが、副審側のアンテナに触れるか、その外側を通過したとき。

⑤ ボールが、主審から見えない位置で外部の物体や床に触れたとき。

⑥ ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。

3 記録員

記録員は、主審とは反対側の記録席に座り、次の任務を果たす。

1） 試合およびセットの開始前

規定された手続きに従い、その試合やチーム関する必要事項を公式記録用紙に記入し監督またはチームキャプテンの署名を採録する。

2） 試合中は

① 公式記録法に従って両チームの得点を記録し、点示板が常に正しい得点を示しているかどうか確認する。

② 両チームのサービス順を統御し、誤りがあればサービスが打たれた直後に合図する。

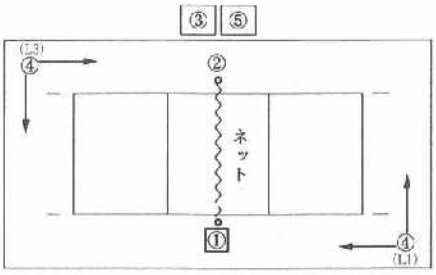
③ 両チームのタイムアウトおよび競技者交代を記録し、その回数を副審に通告する。規程回数を超えた要求や、不当な要求は主審と副審に通告する。

④ 各セットが終了したとき、および第3セットで8点に達したとき、主審と副審に通告する

3） 試合終了時

最終結果を記録し、自分のサインをした後、両チームキャプテン、（線審）、副審、主審の順で署名を採録する。（線審については記録員が事前に記入してもよい）

4 線　審



①:主審 ②:副審 ③:記録員 ④:線審 ⑤点示員

1） ２人の線審は、ネットに向かって左側のコートの両隅から、0.5～1m離れた位置に立ち、旗を使ってその任務を遂行する。

2） 線審は、担当するコーナーで結ばれたエンド・ラインとサイドラインに関する判定、サーバーのフットフォールトや、ボールアウト、イン等を監視し、合図する。

3） 線審は、ボールがアンテナに触れたり、その想像延長線上を通過したり、その外側を通過したとき、合図する。

5 点示員

1） 点示員は、点字板の左右に1人ずつ座り、得点経過を表示する。

2） 得点の表示は、常に公式記録に従わなければならない。

3） 電光掲示板などの特別な点示器具を使用する場合は、点示員の数を1人にしてもよい。

Ⅱ　公式ハンドシグナル
（付録1）

1 主・副審のハンドシグナル（第2図）

① 主審が吸笛した場合のハンドシグナル

1） 次にサービスを行うチームを示す。

2） 反則の種類を示す。

3） 反則したプレーヤーを示す。（必要に応じて）

（副審は、主審のハンドシグナルに追従する。）

② 副審が吸笛した場合のハンドシグナル

1） 反則の種類を示す。

2） 反則したプレーヤーを示す。

3） 主審がサービスチームを示した後にサービス・チームを示す。

（この場合主審は、次にサービスを行うチームのみ示す。）

2　線審のフラッグシグナル（第３図）

公式フラッグシグナルを使って反則判定結果を示し、それをしばらくの間示し続けなければならない。

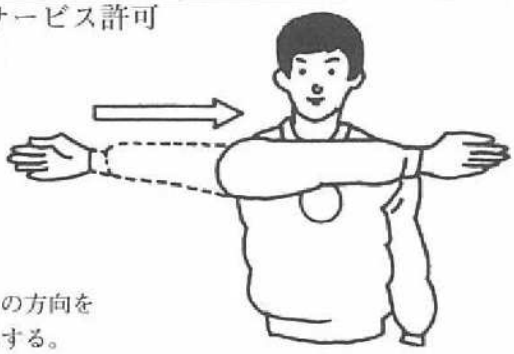
その他

１　競技の記録は、ソフトバレーボール公式記録用紙を用いる。（付録２：公式記録記入法参照）

〈第２図　主審と副審の公式ハンドシグナル〉

審判員　　主：主審　副：副審

主 ● サービス許可



サービスの方向を
手で指示する。

主 副 ● ポイント

サービスをするチーム
側の腕を横にあげる。

主 副 ● ボールイン
（グッド）

フロアーを指す。

主 副 ● ボールアウト

他の競技者や物体に当たった場合も同じ。

手のひらを自分の方に向け
両手をあげる。

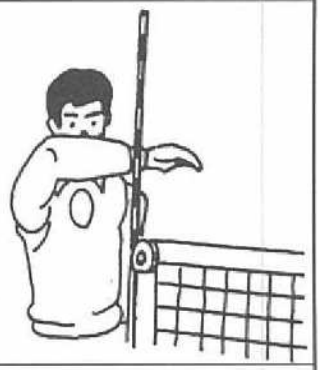
主 副 ● ダブルファウル（ノーカウント）

（ノーカウントおよび緊急
にラリーを中断するとき）

両手の親指を立てて，両腕をあげる。

審判員　　主：主審　副：副審

主 ● オーバーネット



片方の手のひらを下に向け，
ネット上方に伸ばす。（副審
は同様の動作で合図する。）

主 副 ● オーバータイムス

指を 4 本伸ばし，その手をあげる。

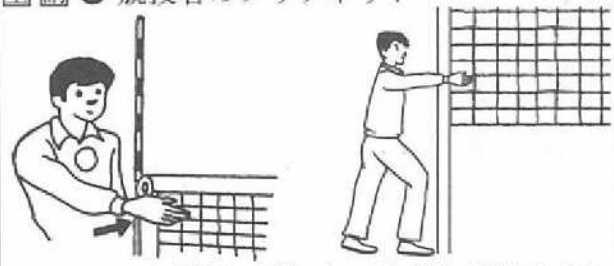
主 ● サービスボールがネット上端に触れ，
相手コートに入ったとき

ネットの上端をサービス
側の手で触れる。

主 ● サービスボールがネットに触れ，ネット
を越えないとき

ネット側面をサービス側
の手で触れる。

主 副 ● 競技者のタッチネット



反則をした側のネットに触れる動作をする。
（実際に触れなくても良い）

審判員　　主：主審　副：副審

主 副 ● ワンタッチ

垂直に立てた手の指先を、他方の手でブラシをかけるようにする。

主 副 ● ホールディング

片方の手のひらを上に向け，前腕をゆっくり持ち上げる。

主 副 ● ドリブル

指を２本伸ばし片方の手を上げる。

主 ● サービス時にボールをヒットしなかったとき

腕を伸ばし，片方の手のひらを上に向けて上げる。

主 ● フットフォールト

サーバーを片方の手で指して，次に足もとを指す。

審判員　　主：主審　副：副審

主 副 ● パッシングザセンターライン
● ボールがネット下方の空間を完全に通過したとき

片方の手でセンターラインを指さす。

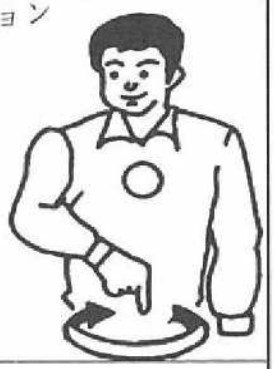
主 副 ● アタックヒットの反則

片方の手を上に伸ばし，前腕を振り下ろす。

主 副 ● ブロックの反則

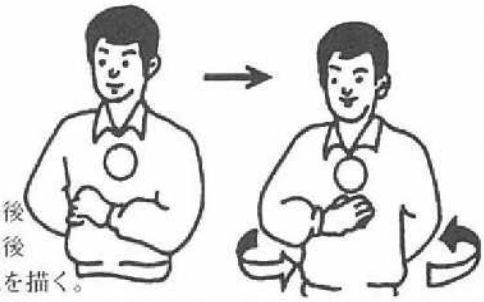
両手のひらを前に向け両腕を上方に上げる。

主 副 ● アウトオブポジション
● サービス順の誤り



片方の手の人差し指で身体の前に円を描く。

主 副 ● チェンジコート



左腕は前から後ろへ，右腕は後ろから前へ弧を描く。

審判員　　主：主審　副：副審

主 副 ● 選手交代

両腕の前の部分を，お互いにぐるぐる回す。

主 副 ● タイムアウト

片腕を立て，その上に反対側の腕を横にしてＴ字を形作る。

主 副 ● セットおよび試合の終了

手のひらを自分の方に向けて両腕を胸の前で交差する。

主 ● 警告

黄カードを示す。

主 ● 反則

赤カードを示す。

審判員　　主：主審　副：副審

主 ● 退場

赤カードと黄カードを一緒に示す。

主 ● 失格

赤カード，黄カードを別々に示す。

線　審　　線：線審

線 ● グッド

旗を下げる。

線 ● アウト

旗を上げる。

線 ● ワンタッチ

旗を立て，他方の手のひらを旗の先端にのせる。

線 ● ボールがアンテナに接触するか，その上方外側を通過したときおよびフットフォールト

アンテナまたはエンドラインを片方の手で指し頭上の旗を左右に振る。

線 ● 判定不能

両手を上げ，両手を胸の前で交差する。